

第22回 葛人権を考えるつどい開催 ～出会い ふれあい 思いやり～

人権の21世紀といわれる中で、埼玉市町の地域における人権問題に取り組むさまざまな団体が主体となり、行政とともに同和問題をはじめとしたあらゆる人権問題の早期解決に向けて、地域間の交流を通じて、地域住民の人権意識の高揚と正しい理解を図ることを目的に開催されます。この事業は「一人権尊重社会をめざす県民運動」事業として実施するものです。

今年も、埼玉12市町の全児童・生徒が参加し、人権に思いを寄せたメッセージを形にした「10万人のメッセージ」や「10万羽の折鶴」を会場内に展示します。また、それぞれの市町をイメージした短冊に願いを書き、飾り付けて大きく育てていく「埼玉心の木」も展示します。



昨年の様子
(会場入り口)

唱、和太鼓、ちんどんパフォーマンズなど

※久喜市からは久喜中学校の演劇、栗橋東中学校のステージマーチング、河籾流茶扇会の新舞踊が参加します。

展示 特別支援学校、埼玉12市町の人権共同展示など

※久喜市からは東洋製罐株式会社久喜工場、県立久喜特別支援学校、久喜市いちよりの木、久喜市けやきの木が展示を行います。

販売 福祉施設等の自主生産品、皮革製品、農産物、特産品など

※久喜市からはアルト・ボラルあおぞら、久喜市あゆみの郷、久喜市いちよりの木が販売を行います。

入場料 無料

主催 人権啓発推進埼玉実行委員会、久喜市、幸手市、蓮田市、白岡市、三郷市、八潮市、越谷市、吉川市、春日部市、杉戸町、宮代町、松伏町
問合せ 人権推進課人権推進係 (内線2321) / 生涯学習課人権教育係 (内線4286)

日時 10月17日(木) 9時30分～16時
※歓迎行事は9時から
場所 アスカル幸手(幸手市大字平須賀2380の1)
内容 発表 金管鼓笛隊、元気アップ体操、リコーダー演奏、楽器演奏、合



昨年の様子
(大ホール)

連載 久喜歴史だより(第23回)

江戸時代初期の建築状況を伝える 旧医王院薬師堂棟札

古い建物がいつ建てられたのか、具体的な特定は難しい作業です。ただし、建物の棟札が残されていた場合、特定できます。棟札とは、建物の新築や修理の際、記録として建物の棟木に打ちつける木の札です。棟札には建築年月日や目的、施主、大工のほか、寺院や神社の場合には祈願内容などが記されていることもあり、建築時期以外にも多くの情報を得ることが出来ます。

市内に残る棟札の中でも古いものの一つに、旧医王院薬師堂棟札があります。医王院は除堀地区にかつて存在していた新義真言宗の寺院で、戸ヶ崎村(現菖蒲町菖蒲)の吉祥院の末寺でした。山号は、江川山で、大日如来を本尊としていました。



旧医王院薬師堂
棟札

医王院は明治3年(1870)に廃寺となりましたが、付属の薬師堂はその後も残されてきました。昭和54年の改修の際に2点の棟札が発見され、大きい方の棟札の記述によると、薬師堂

はそれまであったものを慶長13年(1608)に建て替えたものでした。忍田主斗や細井弾正など援助を行ったと考えられる約50人の名前が確認できます。小さい方は梵字や人名などが書かれていて、大きな棟札に付属するものと考えられます。

薬師堂は改修によって屋根や外壁などが新しくなっていますが、構造そのものは建築当時の姿を残していると考えられます。建物と棟札の両方ともに残されている例としては埼玉県東部でも最古級とされており、棟札2点は市の文化財に指定されています。

棟札は同じ除堀地区の不動寺が管理していましたが、今年度から郷土資料館でお預かりすることになりました。現在、郷土資料館で開催中の第3回企画展「新しい久喜のたからものー新収蔵資料展ー」でこの棟札を展示しています。この機会に貴重な文化財をぜひご覧ください。(11月10日(日)まで)。



問合せ 郷土資料館 ☎57・1200